

おわりに

地球環境に配慮する時代が到来し、高度情報化、グローバル化、少子高齢化が確実に進み、東日本大震災の経験を経て、安全、安心で持続可能な社会の構築が希求されている。持続可能な社会を支える知的なインフラとしての大学の重要性は、今後さらに増すものと思われる。本書で明らかにした文系地区基本設計は、そうした時代の大学キャンパスづくりにふさわしいものを目指した。今後、さらに検討すべき課題も多くあるが、7つの部局と中央図書館という未だかつてなかった複合的地区の設計のために、英知を結集した。

2005（平成17）年に開始した九州大学の統合移転事業も、いよいよ最終段階の第Ⅲ期に入った。九大学研都市駅周辺の施設整備も着実に進み、隣接地の元岡では、土地区画整理事業による九大新町が誕生し、学生の住居、商業、研究施設等が集積するまちづくりが着実に進められている。

九州大学学術研究都市の核として、また、九州大学の総合研究の拠点として、伊都キャンパスの施設整備を早期に実現するため、各方面のご理解とご支援をさらにお願ひする次第である。

2013年(平成25年)7月
新キャンパス計画専門委員会